

度胸という名の大輪

岡本 悠

康は、吠えた！

出版社に送ればいい

それをするか、しないか、だけの度胸だ

何に俺は怯えているのか、わからない

哲学も死んだ

生きる意味も死んだ

幸せも死んだ

あるのは、リアル！

もうちょっと応援されてから送ろうか

それとも、すぐにでも送ろうか

決めるのは、俺なんだ

生きる上で、ほんとうに生きないといけない

じゃあ、すればいいだけだ

俺が、おじいちゃんになって、あの時、挑戦しておけば、と、後悔したくない

長渕剛は歌った「でっかい、勇気の花、もう一度咲かせてやれ！」

いずれ、神の力も借りないのが答えなのか？

もう、哲学はやめたはずだ

人はひとりでは生きていられない

応援されるから、頑張れる

主人公は、自分でいいんだ

他者のことは、とりあえず、そのあとでいいんだ

じゃないと、ブレル！

出さない限り、迷うのなら、もう出してしまうよ

どの道、作品なんて古くなる

こっちを出しとけば、なんてことより

今の自分を、出し切っちゃったほうがいい

迷いも、たち切れる

迷った時は、進むほうを選ぶべきか、やめるべきか、

ズラタン・イブラヒモビッチなら、進むほうだ

常に、チャレンジだ

父親は、メールで、駄目元でいいから、やってみたら？

と、書いてくれた

それでいいんだ

人生の先輩が言ったんだ、間違いない

もう 袋に包んで出せばいい

自信作をつまんで

出せばいい

結果はどうあれ

俺は、勝ったことになる

自分に

それが財産だ

せめて、どうするか だけは、俺が舵を取ろう

あとの細かいことは、神に任せればいい

今は、これでいい

この小説ができたあとにチョイスして

明日には、コピーで仕上げて

明後日には、郵便局で出すぞ

それでいい！

できることをしよう

それは、少なからず今は、出版社に出すということ

それさえしてしまえば、もう天国だ

荷は下りる

バーに行くかも、結婚するかも、恋人作るかも、全部、俺が決めよう

神は補助だ

あまりにも、あからさまな俺が行ったら、みっともないから

神の補助ありだ

未来では、俺は神を蹴っ飛ばす

長渕剛のように

それが、神を超越することだが、

そんな哲学も、どうでもいい

俺は、裸になった

こんな日は、女を抱きたい

でも、女がいないから...

まずは、センバツを決めたあとで

時間があったら、マスターベーションだ

動画でも見てね

風俗までは気が向かないよ

やれる範囲でいい

俺、きっと小説が好きなんだよ

音楽はどうか？

詩もね

でも、まずは、小説の勝負だ！

バーも無理していかない

まっすぐだ

神よ、力を授けてくれなんて叫ぶ前に

自分を信じろ！

ヨーソロー

もう、これ以上書けなくなってもいい

とにかく挑戦だ 挑戦だ

行こう！

俺には、見える、神を脱ぎ捨てた風景が、

そこは明るい

下手くそな小説でいい

ニヒルなんてクソ食らえ！

永遠に生きられる薬なんてなかった

神の迷信だ

巨人が好きなら、真剣に愛そう

逃げれば、負ける

アントニオ猪木は言った

「やる前から、負けること考える馬鹿いるかよ」と、

負けてもいいんだ

勇気があれば、度胸があれば

落ちることなんてこれっぽちも怖くない

ただ 何かが無性に怖いだけなんだ

それだけなんだ



そして、すべて送り終わったその日、

俺がどうなっているかなんて知らない

神なんて信じるものか！

でも、一番、愛しているのは、神なんだよ！

神、ありがとう

礼儀だ

俺、何やりたいかなんてわからないよ

そんなことより、早く出せ

そうすれば、道は拓く

イカリをどけて、早く漕ぎ出せ

神はいるのか？

いてくれるのか？

でも、自分のことは、自分で決めなきゃ、やらなきゃ

買い物だって、できないかもしれない

人と上手く話せないかもしれない

そんな時、神はいてくれるのか？

ありがとう、神

礼儀だ

俺、決めたんだ、小説かきたいんだよう

夢、叶えたいんだよう

でも、そんなことより大切なのは

神が傍にいてくれること

これが一番だな

もう、どうでもいいんだ

これは履歴書でもなんでもないんだから

リラックスさせてくれ

俺は、神を愛している

それだけでいい

それがわかったら

逃げないうちに、出版社に、送りこむだけだな！ 勇気！ で！

「完」